

協力会社の皆さまへ 2023年 年頭のご挨拶

皆様、あけましておめでとうございます。2023年、新たな年の仕事始めにあたり、一言ご挨拶申し上げます。まずは皆様方におかれましては、健やかにお正月を過ごされたことと思います。また、平素より弊社事業に多大なご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

例年の恒例行事となっておりました弊社の賀詞交歓会は、新しい年をお祝いするとともに、懇親を深めさせていただくことが楽しみな催しであり、コロナもインフルエンザ化したとの観測や、行動制限も解除されたことから、何とか開催をともしましたが、今なお、ウィルスは姿を変えて猛威が収まらないことから、本年も開催の中止をさせていただく運びとなりました。

しかしながら、昨年6月にはその合間をぬって、各支部における安全大会のリアルな開催も実施させていただくことができ、常日頃のご支援に対する御礼と更なるご協力をお伝えしました。懇親会こそできませんでしたが、やはりFace to Faceに勝るものはないと実感いたしました。今年のこの年頭もリアルなご挨拶は叶いませんが、せめてこのような形でも気持ちをお伝えできれば幸いと存じます。

さて昨年末、恒例行事の清水寺の貫主による象徴漢字は「戦」(せん) でした。2001年アメリカ同時多発テロの報復で始まったアフガニスタン侵攻の年に続き、2回目の選定でした。

世界情勢は、常に姿を変えつつ、一向に衰えをみせないウィルス感染に加えて、昨年初頭に始まったロシアのウクライナに対する一方的な軍事進攻が継続しており、当事国での民間人を巻き込んだ悲惨な状況にとどまらず、経済制裁の応酬による世界経済への影響は、物価の高騰や通貨の下落、貿易の不均衡など、政治経済上の安定性を欠くものとなって、主要国が自国を守るための軍拡という「戦いへの様相」への動きを表しているものと思われます。

国内では、安倍首相の暗殺をきっかけに「旧統一教会」と政治家の癒着があぶり出され、あいつぐ「政治と金」問題の発覚により、国務大臣の更迭が相次ぎ、岸田政権への不信による支持率の低下が止まらない状況となっています。しかしながら、圧倒的多数に支えられた与党連合により、十分な審議がなされないまま、防衛費の大幅な増額を含む予算案が可決、新たな増税が目論まれるなど、今後の社会情勢の展望が心配される状況となっています。

そのような混沌とした世相の中ではありましたが、11月から開催されたワールドカップカタール大会における「森保ジャパン」の活躍は大きな感動をもたらしました。特にスペイン戦における三苦選手のゴールライン1ミリの攻防は、決してあきらめずに食らいつく姿勢として強く心に残るものでありました。

さて、わが社を顧みますと、今年度(2022年度)の業績は、コロナの影響による2020年度の低迷から回復した昨年度(2021年度)を上回り、期首に設定した目標の達成こそ難しいものの、過去最高の売上が狙える見込みとなっています。

また、今後の経営環境の土台となる新規定期管理案件の受注状況につきましても、注力していた大型案件の失注も数件あったものの、昨年度を大きく上回り、目標の達成ができる見込みです。また、新規受注額における鹿島施工の割合は過去5年で最高であり、鹿島との連携強化による業務拡大の成果も確実に現れてきたと実感できる年でした。業界特有の単なる価格競争に頼ることなく、鹿島連携、技術サービスの差別化提案によって優位性を示す戦略的な受注姿勢も定着してきていると思われます。これもひとえに、前任の先輩方の財産や、社員の不断の努力、そして何にもまして、皆様方との協力関係が盤石であることによる弊社の基盤の礎があればこそであり、重ねて感謝申し上げる次第です。

しかしながら、利益面におきましては、人件費の上昇や材料費の高騰などの原価の上昇を得意先との契約に転嫁できず、たいへん厳しい状況となっており、生産性向上による収益構造の改善対策を強く実感する年でもありました。

私達の労働環境におきましては、昨年4月の労働基準法改正により所定労働時間の管理が厳格になったことに加え、昨今の人口減少による労働力不足など、大きく変わりつつあります。一方ではコロナ対策に呼応した働き方の変更の副産物として、様々なセンサー等のIT技術の進歩や、支援ロボットの多種多用化等による働き方の改善手段もさまざま急速に現れてきています。

そのようなこともあり、弊社におきましても、新しい働き方への改革に合わせた生産性の向上策を待たないですすめるべく、「2030年に向けてのBMアクション」を、昨年秋「社報BM vol.66号」で紹介いたしました。

当社には「情熱 誠実 協心戮力」という不滅の社是がありますが、それをより分かりやすい行動目標に展開し、全社員一丸となつての改革への意識や目的の統一を図りたいと思って作成したものです。社会の変化を先取りし、「どこにも負けない強い会社」、「胸を張って誇れる会社」、「スマートでカッコいい会社」となつて、BMアクションのテーマである「Well-being Well-building(建物にかかわるすべての人を幸せに)」の目的達成による顧客サービスの向上に努めようというものです。

目標の具現化に対する決め手はやはりデジタル化の推進であり、その社内基盤を並行して推進すべく、昨年度、DX 統括部を社長直下に新設、従来の「事業創造推進室」に加えて、「BMEIC推進室」を新設しました。BMEIC(Building Management Engineering Innovation Center)推進室は、開発した先端技術の管理の現場への展開支援、現場の相談事への遠隔での支援・対応など、ステークホルダーへの迅速なベストソリューション提供のために、現場と支社・本社を繋ぐ連携ハブとすることを狙っています。また、5月に予定されている本社移転に伴い、コールセンターが両国研修センターに転居することを機に、3つの組織が今までの業務の枠を超えて、より有機的に結合したコラボレーションオフィスとなる「(仮称)Cross Center」を開設する構想も計画しています。ここではDX

を前提とした建物管理への脱皮を目指して、3つの組織が「集約」「連携」「創造」による新たな鹿島建物の「顔」となることを期待しています。

2030年の会社の飛躍に向けた今後の成長のためには、弊社のこのような新たな働き方を内外に示すことが必要であり、既成の価値観やカルチャーを変えた取り組みへの挑戦が必要であります。

BM(ビルメンテナンス)事業を長年継続してきた比較的安定した業態からか、弊社の社内カルチャーは新しい考えへの変革には不得意感があります。しかし、今年はそれを払拭し、イノベーションへの挑戦と新しい働き方への改革を待たなしで実行していきたいと思っています。

染みついた企業文化はそう簡単に変えることはできませんが、その第一歩として一昨年より始めた小集団活動による日常業務の見直しとも合わせて、働き甲斐のある活力のある職場を創造することにつなげていきたいと考えています。

高望みかもしれませんが、協力会社の皆様にも参加していただくように発展させ、業界のイメージを変えていければ最高です。是非とも積極的なご支援とご協力をお願いいたします。

最後に、コロナは第8波となっても衰えをみせません。しかし、全員の協力で大きな混乱もなく、なんとか乗り切れています。本社移転もあり、忙しい年になりそうですが、新たな試練に対しても社是の示す共通理念のもと、チームワークで対抗すれば明るい未来が開けます。

なお一層のご支援とご協力の程重ねてお願い申し上げる次第です

今年1年の皆様とご家族のご健康、並びにそれぞれの会社のますますのご繁栄を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

令和5年1月

鹿島建物総合管理株式会社
代表取締役社長 山本 和雄